

考慮ヲ以テ成立ヲ促進セシメラレンコトヲ偏ニ奉悃願候

敬具

大正七年十一月九日

東亞興業株式会社

社長 荒井賢太郎（印）

外務大臣子爵 内田康哉閣下

事項七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件

（四平街鄭家屯鐵道借款）

五〇九 一月十五日

在鄭家屯岩村副領事ヨリ
本野外務大臣宛

四鄭鐵道仮營業開始ニ付報告ノ件

送第一七号

（一月二十一日接受）

大正七年一月十五日

在鄭家屯副領事 岩村成允（印）

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

四鄭鐵道營業開始ニ関スル件

四鄭鐵道建築列車運轉開始ニ関シテハ客年十二月二十日付
送第一六六号ヲ以テ及報告置候処今般仮營業開始候ニ付右
ニ関スル調査別紙正副二通及提出候間御査閲相成度此段及
報告候
敬具

（別紙）

四鄭鐵道仮營業開始

四鄭鐵道ハ引続キ諸般ノ工事ヲ取急キツツアリシカ各停車

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 五〇九

場其他ノ設備略々整ヒタルヲ以テ一月十一日より仮營業ヲ
開始シ旅客貨物ノ輸送ヲ為セリ從來ノ建築列車ハ鐵路局工
務科ニ於テ便乗事務ヲ取扱ヒタルモ今回ハ運輸科ノ管掌ニ
移シ大体滿鉄ノ制度ヲ標準トシテ賃率及諸規程ヲ定メタル
由ナルカ開業早々ノ為メ設備其他ノ点ニ於テ遺憾ノ点無キ
ニ非サルモ漸次工事ヲ完成シ数月ノ後更ニ本營業ニ移ルヘ
シト云フ尚仮營業開始後ノ列車ハ滿鉄四平街駅ヲ基点トシ
一日二回往復運轉スルモノニシテ午前六時二十分發ノモノ
ハ混合列車ニテ一、二、三等客車及貨車ヲ連結シ發着時刻
ヲ正確ニシ旅客ノ便ヲ主トスル管ナルモ午前十時三十分發
建築列車ハ客車及材料車ニシテ着發時刻ノ如キハ当分正確
ヲ期シ難キ由ナリ

右仮營業開始後ノ四鄭鐵道發着時間表及旅客貨物賃金表左
ノ如シ

註 右時間表及賃金表省略

五二〇 二月五日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

四鄭鐵道統借調印期日予告ノ件

第一四三号

四鄭鐵道統借契約二月七日調印スヘキ旨交通部ヨリ武内ニ
通知シ来レリ

五二一 二月七日 在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
本野外務大臣宛(電報)

四鄭線統借款契約調印済ノ件

第一六一号

(二月八日接受)

往電第一四三号ニ関シ二月七日四鄭線統借契約調印了セ
リ

五二二 二月十三日 中村正金銀行副総支配人ヨリ
本野外務大臣宛

四鄭鐵道短期借款契約写送付ノ件

附屬書一 右契約書写

二 銀借款ニ関スル往復書翰写

(二月十四日接受)

大正七年二月十三日

横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 本野一郎殿

拜啓去七日調印済ノ四鄭鐵道短期借款契約写北京ヨリ到達
仕候ニ付茲許供御高覽候 敬具

(附屬書一)

四鄭鐵道短期借款契約写

大正四年拾貳月拾七日即中華民國四年拾貳月拾七日支那政
府(以下政府ト称ス)ハ日本国横浜正金銀行(以下銀行ト
称ス)ト四鄭鐵道借款契約ヲ締結シ此ニ依テ四鄭鐵道建設
工事ヲ開始セシカ其資金ニ不足ヲ生セシヲ以テ之ヲ補充セ
ンカ為メ大正七年貳月七日即中華民國七年貳月七日政府ヲ
代表スル交通總長ト銀行トノ間ニ短期借款契約ヲ締結スル
コト左ノ如シ

第壹条 本契約ニ依ル借入金額ハ金貳百六拾万円ヲ限度ト
シ本契約書ニ添付スル書式ノ借用証書ニ依リ隨時銀行ヨ
リ借入ルルモノトス

第貳条 本借入金ノ利息ハ毎壹回分ニ本契約ニ添付スル書
式ノ借用証書ニ依リテ借入ノ日ヨリ年七分即壹ケ年毎百

円ニ付七円ノ割合トシ政府ハ元金返済ト同時ニ之ヲ支払
フモノトス

第叁条 本借入金ハ第壹回分借入ノ日ヨリ滿壹ケ年ニ於テ
返済スルモノトス但シ双方協議ノ上之ヲ延期スルコトア
ルヘシ

政府ハ貳週間前ノ予告ヲ以テ本期日前ニ於テ全文又ハ一
部ノ返済ヲ行フコトヲ得

第四条 本借入金ハ専ラ四鄭鐵道借款契約ノ資金ノ不足ヲ
補充スルニ供スルモノトス

第五条 本借入金ノ取扱ニ関シテハ四鄭鐵道借款契約第拾
四条第壹項乃至第叁項ノ規定ヲ準用ス

第六条 政府ハ本借入金元利ノ支払ヲ無条件ニ保証シ四鄭
鐵道收入ニシテ本借入金元利支払ニ不足ヲ告クル時ハ政
府ハ他ノ財源ヨリ之ヲ補足シ第叁条ニ掲クル期日之ヲ銀
行ニ返済スヘシ

第七条 本借入金元利ハ現在及将来ニ於テ四鄭鐵道ニ属ス
ル一切ノ動産及不動産並ニ該鐵道一切ノ收入ニ依リテ大
正四年拾貳月拾七日即中華民國四年拾貳月拾七日契約四
鄭鐵道借款ニ対シ第貳位ニ担保セラル

七 滿蒙鐵道借款細目交渉ニ関スル件 五二二

第八条 本契約ノ条項ハ外交部ヨリ正式ノ公文ヲ以テ之ヲ
北京駐節ノ日本公使ニ照会セラルルモノトス

第九条 本契約書ハ日支両文各四通ヲ作製シ政府ハ各其ノ
參通銀行ハ各其ノ壹通ヲ保存ス本契約ノ解釈ニ関シ疑義
ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決ス

中華民國七年貳月七日

交通總長 曹汝霖

財政總長 王克敏

日本大正七年貳月七日

横浜正金銀行代表

副総支配人 武内金平

借用証書書式

一金 也

右ノ金額大正七年貳月 日即中華民國七年貳月 日貴行ト
支那政府トノ間ニ締結セラレタル四鄭鐵道短期借款契約ニ
依ル第 回借入金トシテ借入候也

中華民國 年 月 日

日本大正 年 月 日

四鄭鐵道局長(或督弁)

某

日本

横浜正金銀行

御中

註 大正四年十二月十七日締結ノ四鄭鐵道借款合同ニ付テハ日

本外交文書大正四年第二冊四五六文書参照

(附屬書二)

銀借款ニ関スル往復書翰写

往翰

以書簡啓上致候陳者本日四鄭鐵道短期借款合同調印ヲ了シ
候処貴政府ニ於テハ同鐵道ノ為メ差当リ銀借款ヲ希望セラ
レ候ニ付同時ニ貴政府ト弊行間ニ左記ノ通り契約致候儀ニ
御座候就テハ御査閲ノ上何等御異議無之候節ハ文書ヲ以テ
御確認相煩度候

一、本契約ニ依ル銀借款ノ限度ハ銀四拾万円トシ政府ハ実
際借入ノ日ヨリ返済ノ日迄年九分五厘即モ毎百元ニ
付九円五拾銭ノ割合ヲ以テ利息ヲ支払フモノトス

二、政府ハ前記四鄭鐵道短期借款合同ニ依ル借入金中ヨリ
前項銀借款高ノ時価ニ相当スル日本貨幣ヲ担保トシテ銀
行ニ預入ルルモノトシ銀行ハ此預金ニ対シ年六分五厘即

因貴政府希望為該鐵路借入銀款同時由貴政府与敝行商訂左
列各款茲特函達台端敬候査核如無何等異議即賜復函是為至
荷

モ依照本函約之銀幣借款限度為銀幣四拾萬元自政府實際借
入之日起至償還之日止年利九厘五毫即モ毎元年對於毎百元
付息九元五角

式政府由本日所訂四鄭鐵路短期借款合同所借之金款中以与
前項銀幣借款数目之時価相当之日本貨幣為担保存於銀行
銀行對於此項存款付年利六厘五毫即モ毎元年對於毎百元付
息六円五拾銭

參政府將此項銀幣借款存於銀行於必要時隨時取出使用銀行
對於此項存款付年利參厘即モ毎元年對於毎百元付息參元
四此項銀幣借款之期限与本日所訂四鄭鐵路短期借款之期限
相同但政府以五日前之予告得隨時償還全部或一部同時即
得將担保之日本貨幣存款取還相当之金額

五本函件未詳載之事項得準用本日所訂四鄭鐵路短期借款合同
同

等因茲經本政府査核並無異議皆可照原函辦理相應函覆即祈
査照此復

モ毎百元ニ付六円五拾銭ノ利息ヲ付スルモノトス
三、政府ハ本銀借款ヲ銀行ニ預置キ必要ニ応シ隨時引出使
用スルモノトシ銀行ハ此預金ニ対シ年參分即モ毎百元
円ニ付參円ノ利息ヲ付スルモノトス

四、本銀借款ノ期限ハ前記四鄭鐵道短期借款ノ期限ト同シ
キモノトス但シ政府ハ五日前ノ予告ヲ以テ隨時全部又ハ
一部ノ返還ヲナシ同時ニ其担保タル日本貨幣預金ノ之ニ
相当スル金額ノ返戻ヲ受クルコトヲ得ルモノトス

五、本書面ニ別段ノ取極ナキ事項ニ付テハ前記四鄭鐵道短
期借款合同ヲ準用スルモノトス

右申進候

敬具

横浜正金銀行代表

副総支配人 武内金平

大正七年式月七日

支那政府

交通総長 曹汝霖 閣下

復翰

逕復者接准

貴銀行本日来函内称四鄭鐵道短期借款合同本日已經簽字惟

横浜正金銀行

中華民國七年式月七日

交通総長 曹汝霖

五一三 二月十五日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ
幣原外務次官宛

葉交通次長ニ対スル報酬問題ニ関連シ中国官

場ニ於ケル風習ニ適応スル措置ヲ講ズルノ必

要ニ付具申ノ件

(極秘私信)

拜啓時下益々御健祥奉慶賀候陳者葉交通次長ニ対スル苞苴
ノ件ニ関シ右ハ今次四鄭線統借ノ成立ヲ機トシ若クハ例ノ
滿蒙予定線問題ニ引ツ懸ケテ贈与ノコトニ取運フ方寧口得
策ニ可有之乎ト思料シ其旨去ル六日付拙信ヲ以テ卑見及内
申候次第ニ有之候処其後中山交通部顧問來訪同顧問カ交通
部員張競立ヨリ聴込ミタル処ニ抛レハ四鄭鐵路工程局局長
虞愚先頃四鄭線ヲ更ニ五十哩延長方ノ計画ヲ立テ葉次長ニ
提議シタルニ葉ハ結局日本側ノ手ニ歸スヘキコト明白ナル
同鐵路ノ如キニ対シ此上支那側ヨリ進ンテ新計画ヲ提起ス
ルノ必要ナキ趣ヲ以テ言下ニ虞ノ提案ヲ拒否シタル由ニテ

虞ハ為之憤然遂ニ辞表ヲ提出シテ爾來待命中ナル趣内話有之候ニ付小官ヨリ葉ハ元來一事件毎ニ必ス報酬ヲ期待スル人物ナル哉ノ趣ニ付虞局長ノ提言ニ対シ右ノ如キ冷然タル態度ニ出テタルモ畢竟四鄭線統借ニ関シ正金ヨリ別段ノ報酬ヲ入手セサルニ基因スルニ非サルカトノ意見ヲ述ヘタルニ中山顧問モ全然同感ノ意ヲ表シタルニ付小官ハ更ニ正金武内支配人ヲ召致シ前記次第申伝ヘタル処同氏ニ於テモ前述ノ話ニ拠リ想起シタル事実アリトテ実ハ先日交通部參事陸夢熊ヨリ特ニ其私邸ニ來訪方請求シ來リタルニ付往訪シタルモ特ニ私邸往訪ヲ要スル用向トモ難認寧ロ不思議ノ念ヲ起シタル次第ナルカ今ニシテ想ヘハ或ハ報酬ノ提供ヲ予期シタルモノト思料セラルル旨ヲ語リタルニ付交通部ノ無線電信問題ニモ關係ヲ有スル事情ヲモ顧慮シ此際四鄭線統借ノ成立ヲ直接ノ理由トシテ迅速三万弗位贈与ノコトニ取運フ方頗ル得策ト認メ其旨十二日拙電ヲ以テ重ネテ卑見及電稟候次第ニ有之候

本件ノ内情ハ前頭ノ通ニ有之候処由來支那官場ノ腐敗ニ就テハ何人モ疑ハサル処ニ有之候得共更ニ進ンテ親數其真相ヲ探究セハ殆ト驚愕ノ外無之彼ノ在米支那公使顧維鈞ノ如

体同人ヨリ藤瀬取締役ヘ上報濟ノ趣ニ付已ニ同取締役ヨリ御承知ノ儀ト存候得共更ニ其明細ヲ御内聞ニ達セムニ（左記明細額ハ藤瀬氏モ未タ或ハ承知セサル筈）

海軍部 十萬磅、交通部 五萬磅（曹汝霖、陸宗輿二五、〇〇〇磅、葉、曾、曹二五、〇〇〇磅）、曾毓雋 五千磅、ラーセン 四萬五千磅、鮑 五萬磅

通計二十五萬磅ノ巨額ニ達スル勘定ニ有之候

以上縷陳スル処ニ依リ支那官場腐敗ノ実狀ハ大体御首肯ヲ得候儀ト存候処如斯ハ單ニ安徽派乃至北洋派ト称スルカ如キ一党一派ニ屬スル人士ノ特有性トノミ云フヘカラスシテ寧ロ支那人ノ通有性ト認メサルヘカラサル処ニシテ中央政權カ一朝南方派其他ノ一派ニ帰屬スルカ如キコトアリトスルモ到底其弊竇ノ跡ヲ絶ツコトナカルヘク現ニ南方派ノ主要人物ト目セラルル谷鐘秀、陳錦濤ノ如キモ其中央在任時代ニ於テ腐敗漢ノ非難ヲ受ケタルハ御承知ノ通ニ有之而シテ此情弊ニシテ到底一朝一夕ニ之カ根本の廓清ヲ期待シ難キ以上今後各方面ニ於テ対支計畫ノ円満迅速ナル効果ヲ期スルニ就テハ毎々如上ノ特徴ヲ顧慮シ之ニ適応スルノ手段ヲ講スルコト或ハ肝要ニ可有之特ニ最近ノ実例ニ鑑ミ益々

キ紐育ニ於テ支那カ過去五十年間ニ形而上形而下共ニ著大ナル發達ヲ遂ケタル旨ヲ演說シタル趣ニ有之候得共事實ハ是等高襟支那人ノ唱フル処トハ全ク相違シ渺クトモ精神上ニ於テハ何等改善ノ跡ヲ認ムルコトヲ得ス依然賄賂請託旺ニ行ハレツツアルハ疑無キ処ニ有之現ニ御承知ノ通先般漢森公司カ津浦線貨車供給問題ニ関シ差向キ當面ノ目的ヲ達スルヲ得タルカ如キハ支那當局ノ自利心ヲ利用シタル顯著ナル最近ノ実例ニシテ如斯機微ナル内幕ハ地方ニ在テハ充分之ヲ窺知スルヲ得サル処ニ有之候而シテ右等ノ事實ニ鑑ミルトキハ從來本邦商人等ノ企業ニシテ往々千仞ノ功ヲ一簣ニ欠クノ憾アリタル所以ノモノハ畢竟前述ノ如キ支那人士ノ性行ニ顧ミ之ニ適応スルノ術策ニ出ツルヲ閑却セル結果トモ看做スヲ得ヘク現ニ三井大村ノ談ニ拠レハ最近陸宗輿ハ日本人モ大分解リ來レリト内話シタル趣ニテ畢竟前述卑見ノ次第ヲ裏書スルモノト被存候事情右ノ通ニ付目下折角進捗中ノ無線電信問題ニ関スル内情ニ就テモ數次ノ具報ニ拠リ御承知ノ如ク之カ成效ヲ期スル為贈賄ノ不得已実情ニ在ルハ已ニ疾ク御賢察ノ事ト存候尚ホ乍序右ニ関シ大村カ鮑ヨリ確カメタル關係者ニ対スル贈金振當額ニ就テハ大

其ノ感ヲ深ウスルモノ有之候候爰ニ卒直ニ閣下ノ御考量ニ訴ヘタル次第ニ有之候条右様御諒承ノ上幸ニ御同感ノ節モ有之候ハハ閣下ノ御裁量ヲ以テ大臣其他必要ノ向ヘモ極内密ニ御伝被下前記各位ノ御參考ニ資セラレ度此段得貴意候 早々 敬具

大正七年二月十五日

芳沢謙吉

幣原次官閣下

五一四 二月十八日

在中国芳沢臨時代理公使ヨリ 本野外務大臣宛

四鄭鐵道短期借款契約成立ニ付中国外交部ヨリ

リ正式ニ照会越ノ件

附屬書一

二月十日附陸外交總長ヨリ芳沢臨時代理公使宛來翰写

二

二月十八日附芳沢臨時代理公使ヨリ陸外交總長宛往翰写

機密第七一号

（二月二十六日接受）

大正七年二月十八日

在支那

臨時代理公使 芳沢謙吉(印)
外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

予テ商議中ノ四鄭鐵道短期借款並ニ銀借款本月七日正金銀行代表者ト交通及財政兩総長トノ間ニ調印ヲ了シタル趣ハ不取敢往電第一六一号ヲ以テ及電報置候処右兩借款契約關係文書^(註)寫^(註)及送付候条御査閱相成度尚右契約成立ニ付借款契約第八條ニ基キ外交総長ヨリ本月十日付ヲ以テ別紙甲号写ノ通照会致越候ニ付別紙乙号写及回答置候間御承知相成度此段及報告候也

註 四鄭鐵道短期借款契約及銀借款ニ関スル往復書翰写前掲ニ付省略

(附屬書一)

甲号写

二月十日附陸外交総長ヨリ芳沢臨時代理公使宛來翰

照会

外交総長陸

為

照会事准交通部咨称本部因四鄭鐵路建築經費不敷向日本正金銀行統借短期借款議定合同及函約会同財政部提出國務會議議決在案茲於本月七日約同正金銀行代表武内君在部將該合同及函約彼此正式簽字並經送送財政部会簽已訖等因相應

大正七年二月十八日

書面共ニ各当事者ノ正式署名ヲ了シタル旨本月十日付貴翰ヲ以テ御申越ノ次第正ニ致領承候此段回答得貴意候 敬具

五一五 三月八日

在鄭家屯岩村副領事ヨリ
本野外務大臣宛

四鄭鐵道開通後ニ於ケル本邦人事業ノ進展狀

況及新傾向ニ関シ報告ノ件

附屬書

右本邦人事業進展狀況報告書

機密送第一〇号

(三月十六日接受)

大正七年三月八日

在鄭家屯

副領事 岩村成允(印)

外務大臣法学博士子爵 本野一郎殿

四鄭鐵道開通後ニ於ケル邦人事業進展狀況報告ノ件

四鄭鐵道開通後ニ於テハ鄭家屯及其附近ニ新事業ノ勃興ヲ見ルヘキハ自然ノ趨勢ナルモ支那側ニ於テハ一般ニ資本欠缺シ且ツ進歩的事業經營ノ能力少キト昨年大洪水ノ影響ヲ受ケ非常ニ不景氣ナル為メ最近奉天電話公司ノ分局ナル遼源電話公司ノ設立ヲ見タル外何等有望ナル新事業ノ計画ア

照会貴代理公使査照可也須至照会者

右 照 会

大日本国欽命代理駐華全權公使芳沢

中華民國七年二月十日

(右和訳文)

以書翰致啓上候陳者交通部ヨリ四鄭鐵道敷設費不足ニ付日本正金銀行ニ對シ統借短期借款ヲナシ右議定ノ契約書及取極書面ハ財政部ト協同シ國務會議ニ提出シ議決ヲ經タル処本七日正金銀行代表武内君本部ニ於テ該契約書及取極書面ニ双方正式署名ヲナシ且ツ財政部ニ送付シテ已ニ協同署名ヲ終レル旨申越有之候間貴代理公使ニ於テ右御承知相成度此段照会得貴意候 敬具

中華民國七年二月十日

(附屬書二)

乙号写

二月十八日附芳沢臨時代理公使ヨリ陸外交総長宛往翰

以書翰致啓上候陳者四鄭鐵道敷設資金補充ノ為メ貴国政府ト横浜正金銀行トノ間ニ商議セラレタル統借短期借款ハ國務會議ノ議決ヲ經タル上本月七日ヲ以テ該契約書並ニ取極

ルヲ聞カサルモ邦人側ニ於テハ從來ノ居留民力漸次堅実ナル發展ヲ為シツツアルト共ニ新ニ当地方ニ於テ当地方及蒙古内地ニ產出スル物資ヲ以テ製造工業ヲ興サントスル者、農林牧畜等ヲ經營セントスル者、銀行金融業ヲ營マントスルモノ續出シ之カ經營ノ任ニ当ル者ハ専門學校出身者多ク何レモ相當ノ資本ヲ投シ永遠ノ基礎ヲ確立セントスルモノニシテ從來ノ質屋、金貨、売藥、雜貨小売等ノ微細ナル營業ニ比スレハ其根柢ニ於テ多大ノ差異有之加之居留民ノ公共機關モ漸次発達セントスルノ趨勢ナルハ畢竟滿蒙ニ於ケル利源開發ノ意義一般ニ了解セラレツツアル際鐵道ノ開通之カ動機トナリタルモノニシテ邦家ノ為メ甚タ悦フヘキ現象ト存候就テハ近頃当地方ニ於テ既ニ成立シ又ハ計画中ナル本邦人ノ新事業ノ大要ヲ別紙ニ記述致候間御査閱相成度此段及報告候 敬具

追テ別紙記載事業ノ内容ハ当事者ニ於テ嚴ニ秘密ニ付シ居リ外間ニ漏ササル約束ヲ以テ聴取シタルモノ少カラス候ニ付御発表無之様致度為念申添候

写送先付

在支公使 在奉天總領事

(附屬書)

四鄭鐵道開通後ニ於ケル本邦人事業ノ進展狀況

実業方面

一、華安電燈公司 本公司ハ表面支那人ノ名儀ナルモ技師長、會計監督等皆邦人ナルノミナラス其資本(十四五萬元)ノ大部ハ事実滿鉄会社ヨリノ借款ニシテ目下停車場附近ニ発電所ノ建築中ナルカ使用発電機ハ三百馬力ナルニ対シ現在申込燈数約一千ニテ電力ニ余裕ヲ有スルヲ以テ尚他事業ヲ経営スル計画ナリト云フ營業ノ開始ハ四五月頃ナルヘシ

二、興安甘草「エキス」製造合資会社 本会社ハ関東都府ヨリ補助金トシテ約三万円其他ノ出資二万円合計五万円ノ合資組織ニテ鄭家屯ニ工場ヲ開設シ内蒙古各地ニ産出スル甘草ヲ以テ其「エキス」ヲ製造シ日本及米國等ヘ輸出セントスルモノナリ現ニ工場敷地ヲ停車場附近ニ商租シ解氷ヲ俟チテ建築ニ着手スル由ナリ

右社長添田沢三氏ハ從來都督府ノ補助ヲ受ケ通遼鎮(白音他拉)ニ日光洋行ナル店舗ヲ設ケ甘草ノ買付ヲ營業トシ来リタルモノナリ

ナルモ豊富ナル資本ト特殊ノ技術及經驗ヲ要スルヲ以テ頓ニ着手セントスルモノ無カリシカ近頃四平街東亜煙草会社出張所長岩谷竹治氏ハ遼源県知事趙延宸氏ト内協議ヲ遂ケ鄭家屯ニ屠獸場ヲ設立シ滿鉄沿線其他各地ヘ獸肉ヲ販売シ且ツ当地附近ニ牧養場ヲ設ケ蒙古産牛馬等ノ改良等ヲ図ル計画ニテ目下準備中ナリト云フ尚右岩谷氏ハ東京岩谷松平氏ノ男ニシテ本事業ニ相当ノ資金ヲ投スル筈ナリト

六、銀行金融業

イ 朝鮮銀行

同銀行鄭家屯出張所ハ三月一日營業ヲ開始シタルヲ以テ商取引ハ勿論一般金融上頗ル便宜トナレルカ總テ金券勸定ナルヲ以テ三井洋行ニ於テモ雜貨取引ヲ全部金建ト為シタルニ其成績頗ル良好ナリト

ロ 正隆銀行

大連ニ本店ヲ有シ滿鉄沿線各地及天津、上海、芝罘等ニ支店ヲ有シ東京安田銀行ト關係深キ本行モ鄭家屯ニ支店ヲ開設スルコトニ決定シ既ニ中大街極要ノ地点ニ家屋ノ借り入レヲ為シタリ開業ハ四五月ノ頃ナリト云フ

三、燒酎釀造業

イ 高粱ヲ原料トスル燒酒釀造

數年以來三菱ノ留學生トシテ蒙古各地方ノ經濟調査ヲ為シ来リシ菊竹実藏氏ハ三菱部内ヨリ數万ノ資本ヲ仰キ支那人及蒙古人ニ需要サルル高粱酒ヲ釀造スル目的ヲ以テ工場ヲ鄭家屯及白音他拉ノ中間ナル達罕^{ダイハン}ニ建設スヘキ計画ニテ目下内密ニ其ノ準備中ナリ

ロ 馬鈴薯ヲ原料トスル燒酒釀造

東亜煙草会社四平街出張所長岩谷竹治氏ハ鄭家屯附近ニ産スル馬鈴薯ヲ以テ燒酒ヲ釀造セントノ計画アル由ナルモ未タ具體的ニ決定セサルモノノ如シ

四、曹達精製工場

南滿州太興合名会社ニ於テハ蒙古各地ニ産出スル曹達ヲ買取シ之ヲ精製シテ輸出セントスル計画ヲ立テ奉天駐在同社理事多内氏ハ目下上京右ニ関シ本社ト商議中ナリト云フ

五、屠獸場經營獸肉販売業

本事業ハ日本内地及旅順大連地方ニ於ケル獸肉及畜産物ノ暴騰ニ伴ヒ有利ナルモノトシテ一般ニ囑目セラレ之カ經營ヲ為サントスルモノ多數

ハ 此外ニ当地方ニ商業上ノ根拠ヲ有スルモノ數名関東都督府ノ補助ヲ受ケ一種ノ金融組合ヲ設立セントシ目下計画中ノ由ナルカ多分遠カラス成立スヘシト云フ

七、運送業

イ 公益車行

滿鉄会社ノ直接經營ニ係ル同行ハ從來四平街ニ本店ヲ有シ専ラ大馬車ヲ以テ鄭家屯四平街ノ貨物運送ヲ取扱ヒ来リシカ四鄭鐵道開通シタルヲ以テ更ニ本店ヲ鄭家屯ニ移シ支店ヲ洮南及白音他拉ニ置キ同地トノ運送業ヲ開始セリ

ロ 山口運輸公司

滿鉄沿線各地方ニ於テ鐵道運輸業ヲ営ム同公司ハ新ニ鄭家屯ニ支店ヲ設置スルコトニ決定セシ由ニテ目下家屋ノ借入中ナリ

ハ 通蒙轉運公司

戒田清澄氏(四鄭鐵路局會計主任戒田秀澄氏ノ兄)及鉄嶺樺組ト支那第二十九師長砲兵団長石得山トノ合弁出資ニテ四鄭鐵道各駅ニ於ケル貨物ノ積卸業ヲ営ムモノニシテ近頃四鄭鐵路局ヨリ特許ヲ得既ニ其營業ヲ開始セリ

八、農業等

イ 佐々江及早間分

佐々江嘉吉氏及早間正志氏カ昨年中達爾罕王旗下ニ各々百方地内外ノ土地買収ヲ為シタル件ニ関シテハ昨年中屢次機密信ヲ以テ報告シタル所ナルカ昨年中右土地ヲ小作人ニ貸付ケタルヲ以テ本年ヨリ当地ヲ根拠トシ充分ノ經營ヲナス由ナリ

ロ 東札魯特旗下土地買収

二月八日附送第三〇号ヲ以テ報告シタル内蒙古開魯県附近ノ拂下土地ハ大正六年中大阪藤田組等買収ヲ為サンタメ数名ノ技師ヲ派シ調査シタル事アリシモ交通不便ナルト警備機関不十分ナル為当分利益ノ見込少シトテ之カ買収ヲ見合セタル由ナルカ其後邦人某氏ハ支那人名義ヲ以テ約五百方地ノ廣大ナル地積買収ニ着手シタル由ナルモ当事者ハ非常ニ秘密ニ附シ居ルヲ以テ詳細ナル事実ハ判明セサルカ早晚日支合弁トシテ農林牧畜事業ノ經營ヲ見ルニ至ルヘシ

九、造林業

鄭家屯附近ノ蒙古地方ニハ農業ニ適セサルモ造林地トシ

日本人小学校ヲ設ケ本年四月ヨリ開校ノコトニ決定シ目下校舎ノ修繕中ナリ

ロ 日本語学校

当地ニハ家塾的ニ日本語ヲ教授スル処アルモ未タ完全ナラサルヲ以テ滿鉄会社ニ於テハ新ニ日支合弁ヲ以テ日本語学校ヲ經營セントシ既ニ遼源県知事趙延宸氏ト商議略々纏リ目下之カ計画ヲ進メ居レリ

二 病院 鄭家屯ニハ現在滿鉄公医及邦人開業医各々一名アルモ設備不完全ニテ一般ニ不便ヲ感スルコト少カラサリシカ滿鉄会社ニ於テハ病院建築ノ計画ヲ立テ既ニ第二十九師長吳俊陞氏ヨリ所要敷地ヲ提供スヘキ承諾ヲ得タルヲ以テ本計画ノ実現セラルルモ遠カラサルヘシ尚滿鉄ヨリ支出スヘキ病院建設費予算ハ約七万円ナリト云フ

三 寺院、墓地 昨年中有志者相議シ鄭家屯ニ真言宗寺院ヲ設置セシモ其基礎薄弱ナルカ浄土宗ニ於テモ本山宗務所ヨリ一千円ノ建築費ヲ支出シ寺院ヲ建立スルコトニ決定シ目下其計画中ナルカ遠カラス其設置ヲ見ルニ至ルヘク又日本人会ニ於テモ墓地及火葬場設置ニ付準備中ニシテ目下土地選定中ナリ

テ有望ナル土地少カラサルカ從來之ヲ省ルモノ殆ト無ク近年人口ノ増殖ニ連レ建築材料ノ欠乏ヲ来シタルヲ以テ低廉ナル土地ヲ買収シ造林ヲ為シ建築材料ノ外隣寸軸木其他諸工業用材ヲ得ントスル計画アリ将来尤モ有望ナル事業ナルカ目下本事業計画中ノ者数人アリ

十、貸屋建築

昨年中前記佐々江嘉吉氏及日華公司主川上久輔氏其他数名ノ邦人ハ商埠予定地内ニテ停車場ト鄭家屯市街トノ中間ナル枢要ナル土地ヲ商租シタルカ右ハ自己所要家屋建築ノ外多数ノ家屋ヲ建築シ一般ニ貸付ケントスルモノニテ各種事業ノ勃興ト共ニ家屋不足ニテ業務ヲ開始スル能ハサル者ニ對シ便宜ヲ与フルト共ニ有望ナル事業トシテ算スヘキモノナリ

公共事業

一 諸学校

イ 日本人小学校

鄭家屯ハ比年邦人人口増加シ從ツテ学齡兒童多数ニ達シタルモ学校ノ設備無キタメ子女ヲ有スル者ノ不便トシタル所ナルカ鄭家屯日本人会ニテハ滿鉄会社ノ補助ヲ受ケ

四 新聞発行 滿州新報記者渡部寅次郎氏ハ鄭家屯ニ於テ日支両文ノ新聞紙ヲ発行セントシ其許可ヲ願出タルニ付取調ノ結果差支ナキモノト認メ之ヲ許可シタルヲ以テ目下其設立準備中ナルカ四月初旬ヨリ之ヲ発行スル筈ナリ、尚同新聞社ハ活版印刷業ヲ兼營スル由ナルカ当地ニ於ケル新聞及活版業ハ今回ヲ以テ嚆矢トス

五一六 九月十七日

在鄭家屯岩村領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

四 鄭鐵道開通式ニ関シ報告ノ件

送第一五六号 (九月二十六日接受)

大正七年九月十七日

在鄭家屯

領事代理 岩村成允 (印)

外務大臣男爵 後藤新平殿

四 鄭鐵道開通式舉行ニ関スル件

四 鄭鐵道ハ昨年十二月仮營業ヲ開始シ本年四月本營業ニ改メ成績頗ル良好ナリシカ九月十五日四平街ニ於テ盛大ナル開通式ヲ舉行シタリ

四平街、公主嶺、長春、吉林、開原、鉄嶺、奉天、遼陽、

旅順、大連及朝鮮、北京等ノ各地方ヨリ招待ヲ受ケシ來賓ハ当日午前七時四平街發ノ列車ニ乗シ十時半鄭家屯ニ到着其一部ハ市街ヲ見物シ其他ハ当地方ニ於テ招待ヲ受ケタル蒙古王公、日支官民ト共ニ駅構内ニ設備セラレタル宴会ニ列シ一同十二時当地發ノ列車ニ乗シ午後三時四平街ニ到着スルヤ直ニ開通式ハ奉行セラレ四鄭鐵路局長盧愚氏ノ式辭技師長藤根壽吉氏運輸主任竹中政一氏ノ報告アリ尋テ交通總長代理、奉天督軍代理関交渉使、滿鉄国沢理事長其他來賓ノ祝辭アリテ式ヲ終リ宴会ニ移リ各種ノ余興模擬店煙火等アリテ非常ノ盛会ナリキ

当地方ヨリ右式場ニ列席シタルハ達賴罕親王、溫都魯親王各公、都道尹、趙知事、石旅団長、當館員其他日支官民約百名ニシテ支那人側ハ当地停車場ニ演劇ヲ催シ日本人側ハ大縁門ヲ作り「イルミネーション」ヲ設ケ來賓一同ニ鄭家屯絵葉書一組宛ヲ寄贈シ祝意ヲ表セリ

敬具

右為御参考及報告候

五一七 九月 日 (注) 在鄭家屯岩村領事代理ヨリ
後藤外務大臣宛

四鄭線延長問題ニ関連シ鄭家屯開魯線及鄭家

開魯線ニ変更スルコトニ内定セルモ北京政府ハ洮南線ヲ固執セル為未タ決定セサル由記載有之当地方ニテ聞ク所モ亦同様ニ有之候ニ付此際右延長線問題ニ関シ御参考トナルヘキ事項ヲ左ニ開陳致候

抑モ東部内蒙古ニ於ケル広漠タル大平原ハ其地味滿洲各地ト大差ナク殊ニ遼河及洮兒河流域ノ如キ頗ル膏腴ニシテ實際不毛ノ為利用スル能ハサル部分ハ僅少ナルカ故ニ逐年開拓ノ歩ヲ進メ四鄭鐵道開通以來我邦人ニ於テモ蒙古内地ニ農業、植林、牧畜、工業等ヲ經營セントスルノ氣運漸ク勃興セントスルノ趨勢ニ有之候得共右等ノ事業ハ準備ニ長キ日子ヲ要スルコトアルヲ以テ同鐵道ノ延長線問題決定後ニ非サレハ奥地ノ企業ニ着手シ難キ由ナルノミナラス四鄭鐵路局ニ於テモ三江口ノ遼河架橋工事ヲ除クノ外来春頃ニハ略全線工事ヲ終ル由ニ付此際可成速ニ本問題ヲ決定セラルル様致度而シテ洮南開魯何レノ方面ニ延長スヘキカハ軍事外交經濟等ノ諸点ハ勿論鐵道ノ建設費及將來收益ノ見込等ニ付キ慎重ニ考量スルノ必要アルモ蒙古ノ狀態ハ其盛衰發達ノ變動最モ急劇ナルニ付之カ決定ハ最近ノ調査ヲ基礎トセサルヘカラサルコトト存候就テハ四鄭鐵道技師長藤根壽

屯洮南線ノ得失ニ付具申ノ件
機密第四〇号
(十月二日接受)

大正七年九月 日

在鄭家屯

領事代理副領事 岩村成允(印)

外務大臣 後藤新平殿

四鄭鐵道延長線ニ関シ具申ノ件

四鄭鐵道ハ大正四年十二月北京ニ於テ日本ト借款契約調印後多數ノ日本人技師及會計員ヲ傭聘シ同年七月工事ニ着手シ昨六年十一月鄭家屯迄全線路ヲ敷設シ爾來之カ整備ニ努メ本月十五日盛大ナル開通式ヲ奉行シタルカ同鐵道ノ当事者タル支那人ト本邦人トノ關係円満ニシテ熱心協力之カ建設經營ニ從事シタル結果成績良好ニシテ營業ノ前途亦頗ル有望ナルモ蒙古内地ノ開墾年々進捗シ人口増殖セルヲ以テ成ルヘク速ニ同線路ヲ延長シ蒙古開拓ノ実ヲ挙クルハ必要ナルコトハ勿論ナルカ我政府ニ於テハ同線路ヲ洮南ヘ延長スヘキ予定ヲ變更シテ鄭家屯ヨリ開魯県ニ向ハシムヘキ御方針ナル旨風説セラレ最近ノ新聞(九月五日大阪毎日、九月九日滿洲日日等)ニ依レハ同鐵道延長線ハ我閣議ニ於テ

吉氏ハ開魯線洮南線比較研究ノ為去ル六、七兩月中鄭家屯ヨリ通遼鎮ヲ經開魯ニ至リ轉シテ洮南ニ赴キ鄭家屯ヲ經テ帰還致候ニ付其ノ意見ヲ聽セン為メ過日同氏ヲ訪問致候処同氏ノ本鐵道延長線問題ニ関シ既ニ我政府ヨリ支那側ニ交渉ヲ開始セラレ候由ニ付此際自分ノ意見ヲ公表スルハ穩当ナラスト思考スルヲ以テ外間ニハ發表セサルモ小官限り個人ノ意見トシテ内話スヘシト前提シ

一 鄭家屯開魯間(四百二十支里)約百二十哩、此ノ間ノ都市ハ通遼鎮(白音他拉)及開魯ノ二ヶ処ナルカ通遼鎮ハ戶數壹千余、人口約壹万ニ達シ附近ノ地味豐沃ニシテ發達頗ル速カナルモ其終点タルヘキ開魯ハ戶數僅ニ二百、人口壹千余ニ過キサル村落ニシテ附近ノ私下地モ今後數年ノ後ナラテハ開墾ノ進捗ヲ見ル能ハサルヘシ又線路敷設ニ関スル技術上ノ意見ハ鄭家屯ノ北方ヨリ西ニ沙丘地帯ニ入り更ニ西シテ遼河ノ上流ニ一橋ヲ架スルノ外通遼鎮迄ノ工事ハ頗ル容易ニシテ建設費ハ多額ヲ要セサルモ通遼鎮ノ西約一哩ノ地点ニアル「シラムレン」川及其附近ニ數条ノ乾河アリテ毎年雨季ニ氾濫シ殊ニ雨量多キトキハ合シテ大河トナル由ニ付此地ニ一大長橋ヲ架ス

ルヲ要シ其經費頗ル大ナリ又開魯附近モ水害ノ設備ヲ施ササルヘカラス此故ニ鄭家屯通遼鎮間ハ工費少ク營業ノ見込確實ナルヲ以テ至急敷設ノ必要アルモ通遼鎮開魯間ハ工費多大ニシテ当分収益ノ見込ナシ此故ニ今後数年ヲ經テ開魯附近發達ノ状況ヲ見テ本問題ヲ決定スルモ遅カラス

二 鄭家屯洮南間（五百支里）約百四五十哩此ノ間ノ通路ハ途中大ナル都市ナキモ大小村落相次ギ沿道ノ開墾行ハレ其終点タル洮南ノ發達ハ近年長足ノ發達ヲナシ人口ノ増加速ニシテ既ニ約三万ト称シ多数ノ陸軍モ駐屯シ市街繁盛ニシテ活氣アリ殊ニ同地一帯ニハ多数ノ県城村落アリテ土地ノ開拓速カナレハ鐵道ノ經營有望ナルノミナラス其開通後ノ發達ハ更ニ著シキモノアラン而シテ線路敷設上ニ就テハ鄭家屯北方ニ於テ遼河ノ上流ニ一橋ヲ架スルノ外坦々タル平原ノミナルヲ以テ工事頗ル容易ニシテ建築費ノ割合僅少ナルカ故ニ本線路ハ最モ有望ナリトス同技師長ハ前記ノ如ク兩線路ノ比較ヲナシ且ツ日々開魯線ハ将来之ヲ開魯以西ニ延長スルモ現在ニ於テ有利ノ見込ナケレハ当分同地迄ニテ止メ置クノ外ナキモ洮南線ハ

ト有之鄭家屯通遼鎮間ハ土地豊沃ニシテ產物多ク商業取引ナルヲ以テ速ニ鐵道ヲ敷設スルノ必要アリト認メラルルモ通遼鎮開魯間ハ荒地多ク開魯附近モ目下人口極メテ稀薄ニシテ商業未タ發達セサルカ故ニ現在ノ状況ニ照セハ此区域ハ第二期トナスモ遅カラサルカ如ク又鄭家屯洮南間ハ小官ノ実地踏査セサル所ナルモ洮南ノ發達速カナルコトハ最近ノ報告ニ微シ明ニシテ經濟上有望ナルヘク又外交上軍事上等ノ高等政策ニ関シテハ小官ノ揣摩スル能ハサル所ナルモ露國ノ現状ト北滿ノ形勢ニ照シ鐵道ヲ洮南ニ延長スルコトモ決シテ閑却スル能ハサルカ如ク思考致候併シナガラ我當局ノ緬羊又ハ軍馬改良等ニ関スル施設ハ鄭家屯西方ニ於テ

露國ノ近狀ニ照シ将来何等カノ機會ニ於テ齊々哈爾方面ノ東清線ニ接続スル望ナキニモ非サレハ此際支那政府カ洮南線ヲ固執スルニ於テハ之ヲ洮南ニ延長スルコトトシ之ト同時ニ鄭家屯ヨリ通遼鎮迄一線ヲ敷設スルコトニ定メ同線開通後ノ状況ニ依リ通遼鎮ヨリ開魯迄延長スルヲ得策ナリトスト結論シ更ニ四鄭鐵道延長線ノ前途ニ関シ附言シテ曰ク同鐵道ヲ開魯洮南兩方面ニ延長スルトキハ線路ハ合計三百二十哩トナリ其ノ貨客ヲ吸收シ得ヘキ地方ノ面積ハ約五千七百里ニシテ同地方人口ハ僅々四十万人ト推算ス之ヲ日本内地ニ比較スルニ奥羽七県ニ新潟一県ヲ加フレハ五千二百方里トナリ其ノ面積ハ略同シキモ人口ハ八百万ニ上リ該区域内ノ鐵道ノ延長尙千四百哩ニ達セリ此ニ由テ之ヲ觀レハ蒙古内地ニ鐵道ヲ敷設スレハ土地ノ開拓進捗シ人口増殖シ産業發達スヘキヲ以テ何レノ線路ヲ択フモ将来ヲ考フレハ悲觀スヘキモノナシ云々

前記藤根技師長ノ所言ハ同氏カ最近ノ実地踏査ノ結果ニ出テタルモノニシテ小官モ去ル六月中通遼鎮開魯等ニ旅行ノ際出先ニテ屢々同技師長ト邂逅シ実地ニ就キ談論シタルコ

計画セラルルノ説有之又邦人カ開魯附近ノ札魯特旗下ニ於テ廣大ナル地積ヲ獲得セントスル企アル由ニ有之候間是等ノ事業ヲ助成スル等ノ關係上或ハ開魯線カ最モ緊急ヲ要スルモノナルヤハ小官ノ詳知セサル所ナルモ本問題ハ各方面ヨリ御研究ノ上御決定相成候事ト存候ニ付藤根技師長ノ意見ト卑見トヲ併セ及具申候間御參考ニ供セラレ度此段申進候 敬具

写送付先

在支公使、在奉天總領事

註 右公信ニハ日附ヲ欠キタルモ九月二十三日乃至九月二十六日ノ何レカノ日ニ發送セラレタルモノト推定セラル